宝慶記

「道元、幼年、発、菩提心、在、本国、訪、道、於、諸師、聊、識、因果之所由。

雖、然、如是、未、明、仏法僧之実帰、徒、滞、名相之懐幖。

後、入、千光禅師之室、初、聞、臨済之宗風、今、随、全（＝明全）法師、而、入、炎宋（＝宋）。

航海、万里、任、幻身、於、波濤、遂、得、投、和尚（＝如浄）之法席。

蓋、是、宿福之慶幸、也。

和尚、大慈大悲、外国遠方之小人、所、願、者、不、拘、時候、不、具、威儀、頻頻、上、方丈、欲、拝問、愚懐。

『生死、事大。無常、迅速』

時、不、待、人。

去、聖、必、悔。

本師、堂上（＝堂頭）、大和尚、大禅師、大慈大悲、哀愍、聴許、道元、問、道、問、法。

伏、冀、慈、照」

小師、道元、百拝、叩頭、上覆。

和尚（＝如浄）、示、云。

「元子（＝道元）、参問、自、今、已後、不、拘、昼夜時候、著、衣、『衩衣』、而、来、方丈、問、道、無、妨。

老僧、一如、親父、之（の）、恕（ゆるす）、子無礼、也。太白（山＝天童山）、某甲（＝如
浄）」

宝慶元年七月初二日、参、方丈、道元、拝問。
「諸方、今、称、『教外別伝』、而、為看(みなす)、『祖師西来』之大意。
其(その)意、如何?」

和尚、示、云。
「仏祖大道、何(どうして)、拘、内外?!
然(しかして)、称、『教外別伝』、唯摩騰等(など)、所(ところ)、伝、之(の)、外(ほかに)、『祖師西来』、親(したしく)、到、震旦(=中国)、伝、道(みち)、授、業、故(ゆえに)、云、『教外別伝』、也。
世界、不可、有、二仏法、也。
祖師、未(いまだ)、来、東土(=中国)、先(さきには)、東土、有、行李、而、未、有、主。
祖師、既(すでに)、到、東土、譬(たとえば)、如(のよう)、民、得、王、也。
当(あたって)、爾之(その)時、国土、国宝、国民、皆、属、王、也」

道元、拝問。
「諸方古今長老等、云。
『聞、不、聞。
見、不、見。
直下、無、一点計較。
乃、仏祖之道、也』
是、以、
竪、拳、
挙、払(=払子)、
放、喝、
行、棒、
教、学者、無、一、卜度、
遂、則、不、同、仏化之始終、
無、期、二生之感果。
如是之等類、可、為、仏祖之道、耶?」

和尚、示、云。
「若、無、二生、者、実、是、断見外道、也。
仏仏、祖祖、為、人、設、教、都、無、外道之言説。
若、無、二生、乃、不可、有、今生、也。
此世、既、存。
何、無、二生?!
我党、久、是、仏子。
何、等、外道?!

又(また)、如、教(させる)、学人、無、第二点、者(は)、仏祖一方之善巧方便、也。

非、為(ために)、学人、而、無、所(ところ)、得、也。

若(もし)、為(なす)、無、所(ところ)、得、不可、参問、善知識、也、亦(また)、諸仏、不、出世、也。

唯、要、直下、見聞、便(すなわち)、了、也、更(さらに)、無、信及、更(さらに)、無、修証、則(すなわち)、

北洲、豈(どうして)、不、得、仏化、耶?! 北洲、豈(どうして)、無、見聞覚知、耶?!」

道元、拝問。

「古今、善知識、曰(いわく)。

『如(ように)、魚、飲、水、冷暖、自(しぜんと)知。

此(この)自(しぜんと)知、即(すなわち)、覚、也。

以(をもって)、之(これ)、為(なす)、菩提之悟』

道元、難、云。

『若(もし)、自(しぜんと)知、即(すなわち)、正覚、者(ば)、一切衆生、皆、有、自(しぜんと)知。

一切衆生、依(よって)、有、自(しぜんと)知、可、為(なる)、正覚之如来、耶?!』

或人(あるひと)、云。

『可、然(しかり)。

一切衆生、無始本有之如来、也』

又(また)、或人(あるひと)、云。

『一切衆生、未(いまだ)、必(かならずしも)、皆、是(これ)、如来。

所以(ゆえん)、者(は)、何?

若(もし)、知『自覚性智、即(すなわち)、是(これ)、覚』、者(もの)、即(すなわち)、是(これ)、如来、也。

未、知、者(もの)、不、是(これ)、也』

如(のような)是等(これら)説、可、是(これ)、仏法? 否?」

和尚、示、云。

「若(もし)、言、『一切衆生、本(もとから)、是(これ)、仏』、者(ば)、還(また)、同、自然外道、也。

以(をもって)、我我所、比、諸仏、不可、免、未、得、謂(おもう)、『得』、未、証、謂(おもう)、『証』、者(ば)、也。

道元、拝問。

「学人、功夫弁道之時、有、応（まさに）、須（すべからく）、習学、『心、意、識』、并（ならびに）、『行住坐臥』、乎？」

和尚、示、誨、云。

「『祖師西来』、仏法、入、震旦(＝中国)。
豈（どうして）、無、仏法之身心、乎？！
第一初心、弁道功夫時、
不可、長病。
不可、遠行。
不可、多、読誦。
不可、多、諫諍。
不可、多、営務。
不可、食、五辛。
不可、食、肉。
不可、多食、乳。
不可、飲酒。
不可、食、諸不浄食。
不可、観聴、伎楽、歌、舞、等（など）。
不可、見、諸残害。
不可、見、諸卑醜事(、謂、男女淫色、等)。
不可、親近、国王、大臣。
不可、食、諸生硬物。
不可、著、垢膩衣。

不可、歴見、屠所。
不可、喫、旧損山茶、及(および)、風病薬(、在、天台山)。
莫(なかれ)、喫、諸椹。
莫(なかれ)、多喫、乳餅、蘇蜜、等(など)。
莫(なかれ)、視聴、名利之事。
莫(なかれ)、親厚、扇搋、半茶迦、等(など)、類(たぐい)。
莫(なかれ)、多喫、梅子、及(および)、乾栗。
莫(なかれ)、多喫、龍眼、茘枝(ライチ)、橄欖、等(など)。
莫(なかれ)、多喫、沙糖、霜糖、等(など)。
莫(なかれ)、著、厚綿襖。
莫(なかれ)、不、著、綿。
莫(なかれ)、喫、兵軍食。
莫(なかれ)、往(いって)、観、喧嘩之声、車轟之声、猪羊等(など)之群。
莫(なかれ)、往(いって)、観、大魚、大海、及(および)、悪画、傀儡、等(など)。
尋常、応(まさに)、観、青山、谿水。
直(ただ)、須(すべからく)、古教照心。
又(また)、見、了義経。
坐禅弁道之衲僧、尋常、亦(また)、須(すべからく)、洗、足。
身心悩乱之時、直(すぐに)、須(すべからく)、黙誦、菩薩戒、序」

道元、拝問、云。

「『菩薩戒、序』、者(とは)、何、耶?」

和尚、示、云。

「今、隆、禅師、所(ところ)、誦、戒、序、也。
莫(なかれ)、親近、小人卑賤之輩」

道元、拝問、云。

「何者、是(これ)、小人?」

和尚、示、云。

「貪欲多人、者(は)、便(すなわち)、是(これ)、小人、也。
莫(なかれ)、飼、虎子、象子、等(など)、并(ならびに)、猪、狗(いぬ)、猫、狸、等(など)。
今、諸山長老等(など)、養、猫児、真箇(まことに)、不可、也。
暗者之所為、也。
凡(おおよそ)、十六悪律儀、者(は)、仏祖之所制、也。
慎(つつしんで)、勿(なかれ)、放逸、慣習、矣」

拝問、云。

「首楞厳経、円覚経、在家男女、読、之(これ)、以為(おもう)、『西来祖道』。
道元、披閲、両経、而、推尋、文之起尽、不、同、自余之大乗諸経。
未、審(つまびらかにする)、其(その)意。
雖(いえども)、有、『劣、於(よりも)、諸経』之言句、全(まったく)、無(ない)、勝(すぐれている)、於(よりも)、諸経、之(の)、義勢。
頗(すこぶる)、有、同、六師等(など)之見。
畢竟、如何、決定?」

和尚、示、云。

「楞厳経、自(より)、昔、有、疑者、也。

謂(おもうに)、此(この)経、後人、構、歟？
先代祖師、未、曽(かつて)、見、経、也。
近代痴暗之輩、読、之(これ)、愛、之(これ)。
円覚経、亦(また)、然(しかり)。
文相起尽、頗(すこぶる)、似、也」

拝問。

「煩悩障、異熟障、業障、等（など）、障、可、転、者（は）、仏祖之道所（いうところ）、耶？」

和尚、示、云。

「如、龍樹等（など）祖師之説、須（すべからく）、保任、也。

不可、有、異途之説。

但（ただ）、至、業障、者（ば）、慇懃（いんぎんに）修行之時、必（かならず）、可、転（てんじる）、也」

拝問、云。

「因果、必（かならず）、可、感、耶？」

和尚、示、云。

「不可、撥無、因果、也。

所以（ゆえに）、永嘉、曰（いわく）。

『豁達、空（くう）、撥、因果、莽莽、蕩蕩、招（まねいてしまう）、殃禍』

若（もし）、言、『撥無、因果』、者（ば）、仏法中、断善根人、也。

豈（どうして）、是（これ）、仏祖之児孫、耶？！」

拝問。

「今日、天下、長老、長髪、長爪、者、有、何、所、拠？
将、称、『比丘』、頗、似、俗人。
将、名、『俗人』、又、如、禿児。
西天、東地、正法像法之間、仏祖弟子、未、嘗、如、斯。
如何？」

和尚、示、云。

「真箇、是、畜生、也。
仏法清浄海中、死屍、也」

和尚、或時（あるとき）、召、示、云。

「儞（なんじ）、是（これ）、雖（いえども）、後生、頗（すこぶり）、有、古貌。
直（じきに）、須（すべからく）、居、深山幽谷、長養、仏祖聖胎。
必（かならず）、至、古徳之証所、也」

于時（ときに）、道元、起、而、設（もうけた）、拝、於（に）、和尚足下。

和尚、唱、云。

「能、礼、所、礼、性、空寂、感応道交、難、思議」

于時（ときに）、和尚、広（ひろく）、説、西天、東地、仏祖之行履。

于時（ときに）、道元、感涙、沾（ぬらした）、襟（えり）。

堂頭、和尚、於、大光明蔵、示、云。

「行李交（まじわる）衆之時、裙袴之腰條、皆、強（つよく）、緊（かたく）、結（むすぶ）、之（これ）、也。
稍（やや）、経（へても）、多時、更（さらに）、無、力之労、也。
僧家、寓、僧堂、功夫、最要、直、須（すべからく）、緩歩。
近代諸方長老、不、知、人、多、也。
知、者（もの）、極少。
緩歩、以（をもって）、息、為（なして）、限（かぎり）、而、運（はこぶ）、足、也。
不、観、脚跟。
然（しかして）、不、躬（かがむ）、不、仰（あおぐ）、而、運（はこぶ）、歩（あゆみ）、也。
傍観、見、之（これ）、只（ただ）、如、立、一所、也。
肩、胸、等（など）、不可、動揺、而、振、也」

和尚、度度、歩、大光明蔵、向（むかって）、於、東西、教（させた）、道元、見。

便（すなわち）、示、云。

「近日、知、緩歩、者（は）、只（ただ）、老僧、一人、而已（のみ）。
你（なんじ）、試（ためしに）、問、諸方長老、看（みなさい）。
必竟、他、未、曽（かつて）、知、也」

拝問。

「仏法、以（をもって）、何、為（なす）、性?
善性、悪性、無記性之中、何、乎?」

堂頭、和尚、示、云。

「仏法、超越、三性、而已（のみ）」

拝問。

「仏仏祖祖之大道、不可、拘、一隅。
何(どうして)、強(しいて)、称、『禅宗』、耶？」

堂頭、和尚、示、云。

「不可、以(をもって)、仏祖大道、猥(みだりに)、称、『禅宗』、也。
今、称、『禅宗』、頗(すこぶる)、是(これ)、澆運之妄称、也。
禿髪之小畜生、所(ところ)、称(しょうして)、来(きている)、也。
古徳、皆、所、知、也。
往古、之(の)、所、知、也。
儞(なんじ)、曽(かつて)、看、『石門林間録』、麼？」

道元、曰(いわく)。

「未、曽(かつて)、看、録」

和尚、云。

「儞(なんじ)、看、一遍、則、好(よい)。
彼(かの)録、説、得、是(ぜ)、也。
大凡(おおよそ)、世尊、大法、単伝、摩訶迦葉。
嫡嫡、相承、二十八世。
東土、五伝、而、至、曹渓。
乃至(ないし)、今日、如浄、則(すなわち)、仏法之総府、也。
大千沙界、更(さらに)、無(ない)、可(できる)、斉肩、者(もの)、也。

而今、講、得、三五本、経論、以、扇、各各之宗風之徒、乃、仏祖之眷属、

也。

眷属、而、有、内外親疎之高低、也」

道元、拝問、云。

「既、為、仏祖之眷属、則、彼輩、発、菩提心、訪、得、真善知識者。

復、何、抛、年来之所学、忽、投、仏祖之叢席、而、昼夜、弁道、

哉？」

堂頭、和尚、示、云。

「西天、東地、倶、抛、積年之所学、而、進、也。

譬、如、人間、上、丞相之期、不、兼、諫議、然、而、教 其子孫之日、

又、施 諫議之進退者、也。

仏祖之学道、亦、復、如是。

雖、因、諫議等之清廉、上、丞相、而、上 丞相之日、無、議 諫議之儀、

在、諫議之曰、不、議、丞相之儀。

但、所、学、者、皆、是、治国安民之忠節、也。

丞相、諫議、是、一、、心、也。

更、非、二、、心。

道元、拝覆、云。

「諸方長老等所説、皆、非。

未、曽、知、仏祖之道、明、矣。

今、明、知。

仏祖、実(じつに)、是(これ)、世尊之嫡嗣、今日之法王、也。
三千之調度、法界之縁辺、皆、是(これ)、仏祖之所主、而、更(さらに)、不可、有、二王、也」

堂頭、和尚、示、云。
「如(ごとし)、汝之所言。
須(すべからく)、知。
西天、未聞、両、付嘱法蔵。
東土、自(より)、初祖、至、六祖、無、両、伝衣。
所以(ゆえに)、大千之仏道、以(をもって)、仏祖、為(なす)、本(もと)、也」

堂頭、和尚、示、云。

「参禅、者(とは)、身心、脱落、也。

不、用、焼香、礼拝、念仏、修懺、看経。

祗管(ひたすらに)、打坐、而已(のみ)」

拝問。

「『身心、脱落』、者(とは)、何？」

堂頭、和尚、示、云。

「『身心、脱落』、者(とは)、坐禅、也。

祗管(ひたすらに)打坐時、離、『五欲』、除、『五蓋』、也」

拝問。

「若(もし)、離、『五欲』、除、『五蓋』、者(ば)、乃(すなわち)、同、教家之所談、也。

即(すなわち)、為(なる)、大小両乗之行人、者(もの)、乎？」

堂頭、和尚、示、云。

「祖師児孫、不可、強(しいて)、嫌、大小両乗之所説、也。

学者、若(もし)、背(そむく)、如来之聖教、則(すなわち)、何(どうして)、敢(あえて)、称、仏祖之児孫、者(もの)、

歟？！」

拝問。

「近代痴者、云。

『三毒、即(すなわち)、仏法。

五欲、即(すなわち)、祖道。
若(もし)、除、彼等(それら)、即(すなわち)、是(これ)、取捨。
還(かえって)、同、小乗』
如何？」

堂頭、和尚、示、云。
「若(もし)、不、除、『三毒』、『五欲』、等(など)、者(ば)、一如、瓶沙王国阿闍世王国之
諸外道輩。
仏祖之児孫、若(もし)、除、『一蓋』、『一欲』、即(すなわち)、巨益、也。
与(と) 仏祖 相見之時節、也」

拝問。

「長沙和尚、与、皓月供奉、問論、業障本来空之道理。

道元、疑、云。

『若、業障、空、則、余二異熟障、煩悩障、亦、応、空、耶？

不可、独、論、業障之空、不空、耶？』

況、乎、皓月、問。

『如何、是、本来空？』

長沙、曰。

『業障、是』

皓月、云。

『如何、是、業障？』

長沙、曰。

『本来空、是』

今、長沙之所道、為、是？ 也、無？

仏法、若、如、長沙之所道、何、有、諸仏出世、祖師西来、耶？！」

　堂頭、和尚、示、云。

「長沙之所道、終、不、是、也。

長沙、未、明、三時業、也」

拝問。
「古今、善知識、皆、曰(いわく)。
『須(すべからく)、看、了義経。
莫(なかれ)、看、不了義経』
如何、是(これ)、了義経？」

堂頭、和尚、示、云。
「了義経、者(とは)、世尊、説、『本事』、『本生』、等(など)之経。
其(その)往古因縁、或(あるいは)、説、名字、未、説、其(その)姓、雖(いえども)、説、住処、不、説、寿
命、則(すなわち)、未、『了義』、也。
説、了(おわっている)、劫、国、寿命、眷属、作業、奴僕、等(など)、無、不、説、事(こと)、名、
『了義』、也」

拝問。
「縦(たとえ)、雖(いえども)、一言半句、説、了(おわっている)、道理、可、名、『了義』。
如何、唯(ただ)、以(をもって)、広説、名、『了義』、也？！
縦(たとえ)、説、懸河之弁、若(もし)、未、明(あきらかにする)、義理、須(すべからく)、名、『不了義経』、
耶？」

堂頭、和尚、慈、誨、云。
「汝、言、非、也。
世尊所説、広、略、倶(ともに)、尽、道理、也。
縦(たとえ)、広説、究尽、道理、
縦(たとえ)、略説、究尽、道理、

於、其(その)義理、無、不、究竟、
乃至(ないし)、聖黙、聖説、皆、是(これ)、仏事。
所以(ゆえに)、光明、為(なす)、仏事。
飯食、為(なす)、仏事。
生天、下天、出家、苦行、降魔、成道、分衛、涅槃、尽(ことごとく)、是(これ)、仏事。
見聞衆生、倶(ともに)、得、利益、也。
所以(ゆえに)、須(すべからく)、知。
皆、『了義』、也。
於、其(その)法中、説、了(おわっている)、其(その)事、名、『了義経』。
乃(すなわち)、仏祖之法、也」

道元、白(もうす)。
「誠(まことに)、如(のように)、和尚慈誨、保任、之(これ)、乃(すなわち)、仏法、祖道、也。
諸方長老之説、并(ならびに)、日本国古来閑人之説、無、道理、也。
道元、昔、所知、者(は)、於、『不了義』之上、而、計、『了義』。
今日、於、和尚之輪下、始(はじめて)、知、『了義経之向上、更(さらに)、有、了義経、而今、
明(あきらかである)』、矣。
可、謂(いう)。
『億億万劫、難、値(であう)、難、遇(であう)、也』」

拝問、昨夜、三更。
「和尚、普説、云。
『能、礼、所、礼、性、空寂、感応道交、難、思議』
雖(いえども)、有、深意、難、可、解了。
非、浅識、所(ところ)、及(およぶ)。
則(すなわち)、非、無、所、疑。
謂(おもうに)、
感応道交之道理、教家、亦(また)、談。
有、可、同、於、祖道、之(の)、理、耶?」

堂頭、和尚、慈、誨、云。
「你(なんじ)、須(すべからく)、知、感応道交之所致、也。
若(もし)、非、感応道交、諸仏、不、出世、祖師、不、西来。
又(また)、不可、以(をもって)、経教、為(なす)、怨家。
若(もし)、以(をもって)、従来之教法、為(なす)、非、者(ば)、可、用、円衣方器、也。
未、用、円衣方器。
須(すべからく)、知、『必定感応道交』、也」

拝問。

「先日、謁育王山長老大光之時、聊(いささか)、難問、次(ついでに)、大光、曰(いわく)。

『仏祖道、与(と)、教家談、水火、也。

天地懸隔。

若(もし)、同、教家之所談、者(ば)、永(ながく)、非、祖師之家風』

今、大光道(いう)所(ところ)、是(ぜ)、耶？ 非、耶？」

堂頭、和尚、慈、誨、云。

「唯(ただ)、非、大光一人有妄談。

而、諸方長老、皆、亦(また)、如是(このよう)。

諸方長老、豈(どうして)、明(あきらかにできる)、教家之是非、耶？！

那(どうして)、知、祖師之堂奥、耶？！

只(ただ)、是(これ)、胡乱做来長老、而已(のみ)」

拝問。

「仏法、元（もとより）、有、文殊結集、阿難結集、両途。

謂（いわれている）。

『大乗諸経、則（すなわち）、文殊結集。

小乗諸経、則（すなわち）、阿難結集』

而今、何（なぜ）、摩訶迦葉、独、為（なる）、付法蔵之初祖？

而（しかして）、文殊、不、作（なる）、付法蔵之嫡嗣、乎？

何（なぜなら）、況（まして）、文殊、乃（すなわち）、釈尊等（など）諸仏之師、也。

那（どうして）、不足、為（なす）、付法蔵之初祖、耶？

今、称、『如来正法眼蔵涅槃妙心』、恐（おそらく）、是（これ）、小乗声聞一途之法、耶？

如何？」

堂頭、和尚、慈、誨、云。

「如（のように）、汝所言、文殊、是（これ）、諸仏之師、也。

所以（ゆえに）、不、充（あてる）、付法蔵之嫡嗣、也。

若（もし）、是（これ）、弟子、必（かならず）、充（あてただろう）、付法蔵之仁、也。

又（また）、言、『文殊結集』、者（は）、一意、也。

非、常途之説。

況（まして）、乎、文殊、豈（どうして）、不、知、小乗之教行人理、乎？！

又（また）、阿難、唯（ただ）、是（これ）、多聞之人。

所以（ゆえに）、結集、如来一代之説、而已（のみ）。

阿難、已（すでに）、結集、大小二乗、也。

迦葉、乃（すなわち）、一化之上座、也。

最勝之祖、也。

是故(このゆえに)、付法蔵、者(もの)、歟?

縦(たとえ)、雖(いえども)、付、文殊、又(また)、可、有、此(この)疑、也。

直、須(すべからく)、信、知、『諸仏之法、如斯(このよう)』、不可、致、彼此之疑、矣」

堂頭、和尚、夜話、云。

「元子(=道元)、你（なんじ）、知、在、椅子、著、襪（くつした）之法?　也（または）、無?」

道元、揖、白（もうして）、云。

「如何、得、知?!」

堂頭、和尚、慈、誨、云。

「僧堂、坐禅時、在、椅子、著、襪（くつした）之法、以（をもって）、右袖、掩（おおいかくして）、足趺、而、著、也。

所以（ゆえん）、免、無礼、聖僧、也」

堂頭、和尚、慈、誨、云。

「功夫弁道坐禅時、莫(なかれ)、喫、胡椒。胡椒、発熱、也」

堂頭、和尚、慈、誨、云。

「不可、在、当(あたる)風之所、而、坐禅」

堂頭、和尚、慈、誨、云。

「起、於(より)、坐禅、而、歩時、須(すべからく)、行、一息半趺之法。謂(ことをいっている)、移(うつす)、歩(あゆみ)、不、過、半趺之量、移(うつす)、足、必(かならず)、一息之間、也」

堂頭、和尚、慈、誨、云。

「上古、禅和子、皆、著、褊衫、也。
間、有、著、直綴、者（もの）。
近来、都（すべて）、著、直綴。
乃（すなわち）、澆風、也。
你（なんじ）、欲、慕、古風、則（すなわち）、須（すべからく）、著、褊衫。
今日、参内裏之僧、必（かならず）、著、褊衫。
伝衣時、受菩薩戒時、亦（また）、著、褊衫。
近来、参禅僧家、謂（いっている）、『著、褊衫、是（これ）、律家兄弟服』、者（は）、乃（すなわち）、非、也。
不、知、古法、人、也」

堂頭、和尚、慈、誨、云。

「如浄、住院以来、不、曽（かつて）、著、斑（まだら）、袈裟、也。
近代、諸方非儀長老、只管（ひたすらに）、著、法衣、随（したがう）、衆、如（のよう）、無、実証。
所以（ゆえに）、如浄、未、曽（かつて）、著、法衣、也。
世尊、一代、唯（ただ）、著、麤布僧伽胝衣、而已（のみ）。
不、著、余美衣、也。
又（また）、不可、強（しいて）、著、麤悪衣。
強（しいて）、著、麤悪衣、又（また）、是（これ）、外道、也。
称、『欽婆羅子』、乃（すなわち）、是（これ）、也。
然（しからば）、則（すなわち）、仏祖児孫、著、可著之衣、者（もの）、也。
不可、執、一偏、而、擔板、也。
又（また）、営、美衣、者（もの）、小人、也。
糞掃、古蹤、也。

可、知、矣」
炷（たいて）、香、拝問。
「世尊、授、金襴袈裟、於、摩訶迦葉。
是（これ）、何時（いつ）、耶？」

堂頭、和尚、慈、誨、云。
「你（なんじ）、問、這箇事、最好、也。
箇箇人、不問、這箇。
所以（ゆえに）、不、知、這箇。
乃（すなわち）、善知識之所苦、也。
我、曽（かつて）、在、雪竇、先師、処、参問、這箇事、先師、大、悦、也。
世尊、最初、見、迦葉、来、帰依、即（すなわち）、以（をもって）、仏法、并（ならびに）、金襴袈裟、付嘱、
摩訶迦葉、為（なした）、第一祖、也。
摩訶迦葉、頂、受、衣、法、昼夜、頭陀、未、嘗（かつて）、懈怠。
未、嘗（かつて）、屍臥。
常、戴、仏衣、作（なして）、仏想、塔想、而、坐禅、也。
摩訶迦葉、古仏、菩薩、也。
世尊、毎（ごとに）、見、摩訶迦葉、来、便（すなわち）、分、半座、而、坐、也。
迦葉尊者、具、三十相、唯（ただ）、欠、白毫、烏瑟、而已（のみ）。
所以（ゆえに）、与（と）、仏、並、坐、一座、乃（すなわち）、人天之所楽見、也。
凡（おおよそ）、神通、智慧、一切仏法、受、仏付嘱、無、所、欠減、也。
然（しからば）、則（すなわち）、迦葉、見仏之最初、得、仏衣、仏法、也」

拝問。

「天下、有、四箇寺院。

謂(いっているのは)、禅院、教院、律院、徒弟院。

禅院、者(は)、仏祖之児孫、単伝、嵩山之『面壁』、而、功夫、『正法眼蔵涅槃妙心』、留、在、這裏。

誠(まことに)、是(これ)、如来之嫡嗣、而、仏法之総府、也。

余、者(は)、乃(すなわち)、支(枝)離、也。

更(さらに)、不可、斉肩、而、対論、歟?!

教院、者(は)、天台、教観、也。

智者、禅師、独、為(なって)、南岳思禅師之一子、而、禀、承、一心之三止三観、得、法華三昧、旋陀羅尼。

可、謂(いう)、『或(あるいは)、従、知識、宛(あたかも)、是(これ)、或(あるいは)、従、経巻、也』。

道元、徧(あまねく)、観、経論師之見解、解了、一代之経律論、者(は)、独、智者禅師、最勝。

可、謂(いう)、『光前絶後』。

南岳思大和尚、禀、法、於、北斉之慧文、思大和尚、発心、能、発明、根本禅、矣。

慧文禅師、当初、背手、探、経、得、龍樹所造中観論、初(はじめて)、立、一心三観。

自(より)、爾(それ)、以来、天下、教院之所宗、皆、是(これ)、天台教、也。

慧文禅師、雖(いえども)、依(よる)、中論、唯(ただ)、披、所造之論文、未、遇、能造之龍樹。

亦(また)、未、曽(かつて)、蒙(こうむる)、龍樹之印可、也。

況(まして)、乎、寺院之規矩、伽藍之屋舎、用否之所咨、訣、未、備。

今、天下、教院、或(あるいは)、構、十六観之室。

彼十六観、者、出、於、無量寿経。
此経、真偽、未、詳。
古今、学者之所疑、也。
天台之一心三観、豈、等、西方之一十六観、乎？！
彼、者、帯権之教、也。
此、者、顕実之説、也。
天地懸隔、水火、相犯。
想、是、大宋、学者、未、明、天台之教観、而、猥、用、一十六観之帯権、歟？
明、知。
教院、不可、伝、仏在世之寺儀。
天台以前、諸寺、定、伝、摩騰竺蘭之所伝、歟？
律院、者、南山之濫觴、也。
南山、未、曽、入、西乾之大邦。
纔、披閲、東漸之零文、而已。
設、聞、天人之伝説、豈、如、賢聖之親訓、哉？！
所以、今、称、『律院』、而、堂舎殿屋鱗次櫛連之結構、学者、行人、多、疑、之、矣。
今、称、『禅院』、者、天下之甲刹、諸山之大寺、也。
容、衆、千余。
屋舎、余百。
前楼後閣、西廊東廡、宛、如、皇、居。
此儀、必、是、仏祖面授口説。
構、可、構。

建、可、建。

実、不可、豊屋、為、先、者、歟？

朝参暮請、定、為、初祖直指。

不可、比、依文解義之輩、也。

可、以、此儀、為、正、歟？

道元、所、信、者、我仏世尊、出現、世間、必、依、古仏之儀式。

所以、世尊、一日、告、阿難。

『須、依、七仏之儀式』

然、則、七仏法、乃、是、釈迦牟尼仏法、也。

釈迦牟尼仏法、乃、是、七仏法、也。

自、爾、以降、二十八伝、而、至、菩提達磨尊者、尊者、親、達、震旦(＝中国)、正伝、正法、救済、迷情。

亦、伝、而、至、曹渓。

二神足、青原、南岳之児孫、今、称、『善知識』、而、代、伝、揚、化。

其所住之処、僧伽藍、可、為、仏法之正嫡。

更、不可、比、論、教、律、等、寺院、也。

譬、如、国、無、二王、歟？！

幸、乞。

慈、照」

道元、咨、目、百拝、炷、香、上覆、堂頭、和尚、大禅師、尊前。

堂頭、和尚、慈、誨、云。

「元子(＝道元)、来、書、甚、説、得、是、也。

往古、未聞、教、律、禅之閑名。

今、称、『三院』、者、便、是、末代之澆風、也。

王、臣、未、知、仏法、乱、称、『教僧』、『律僧』、『禅僧』、等、寺院賜額之時、亦、書、『律寺』、『教寺』、『禅寺』之字。

如是、展転、天下、今、見、五輩之僧。

所以、律僧、南山之遠孫、也。

教僧、天台之遠孫、也。

瑜伽僧、不空等之遠孫、也。

徒弟僧、師資、未、詳、也。

禅僧、達磨之児孫、也。

可、怜。

末代、辺地、見、如是輩。

西天、雖、有、五部、而、一仏法、也。

東地、五僧、如、不、一仏法、也。

国、若、有、明主、不可、有、如是、違乱。

汝、当、知。

今、称、『禅院』、寺院、図様、儀式、皆、是、祖師之親訓、正嫡之直伝、也。

所以、七仏之古儀、唯、是、禅院、耳。

称、『禅院』、者、雖、乱、称、而、今、所行之法儀、実、是、仏祖之正伝、也。

　然、乃、吾宗、者、本府、也。

律、教、者、支離、也。

所以、仏祖、是、法王、也。

国王、即位、王、於、天下、時、一切、皆、属、王、也」

堂頭、和尚、慈、誨、云。

「仏祖児孫、先(まず)、除、『五蓋』、後、除、『六蓋』、也。
『五蓋』、加、『無明蓋』、為(なす)、『六蓋』、也。
唯(ただ)、除、『無明蓋』、即(すなわち)、除、『五蓋』、也。
『五蓋』、雖(いえども)、離、而、無明、未、離、則(すなわち)、未、到、仏祖之修証、也」

道元、便(すなわち)、拝、謝、叉手、白(もうす)。

「前来、未聞、如、今日、和尚指示。
這裏、箇箇、老宿耆年、雲水兄弟、都(すべて)、不、知。
又(また)、未、曾(かつて)、説。
今日、多幸、特、蒙(こうむる)、和尚大慈大悲。
忽(たちまち)、承、示、未、曾(かつて)、聞、所、宿殖之幸、也。
但(ただし)、除、『五蓋』、『六蓋』、有、其(その)秘術?也(または)、無?」

堂頭、和尚、微笑、云。

「你(なんじ)、向来、作(なしている)、功夫、做(なす)、甚麼(なに)?
這箇、便(すなわち)、是(これ)、離六蓋之法、也。
仏仏、祖祖、不、待、階級、直指、単伝、離、『五蓋』、『六蓋』、呵、『五欲』、等(など)、也。
祇管(ひたすらに)、打坐、作(なして)、功夫、身心、脱落、来(してきている)、乃(すなわち)、離『五蓋』『五欲』等(など)之術、也。
此外(このほか)、都(まったく)、無、別、事。
渾(まったく)、無、一箇事。
豈(どうして)、有、落、二、落、三、者(もの)、哉?!」

道元、感激、作（なして）、礼、而、退。

拝問。

「和尚住院已来、不、曽、搭、法衣、意旨、如何？」

堂頭、和尚、慈、誨、云。

「吾、做、長老、後、不、曽、著、法衣、也。

蓋、乃、倹約、也。

仏、及、弟子、欲、著、糞掃衲衣、欲、用、糞掃鉢盂、也」

道元、又、白。

「諸方、著、法衣、既、非、倹約、猶、滞、少貪。

但、如、宏智古仏、著、法衣、不可、言、『非、倹約』、也」

堂頭、和尚、慈、誨、云。

「宏智古仏、著、法衣、乃、倹約、也。

又、是、有道、也。

你郷里、日本国裏、你、著、法衣、無、妨、也。

我這裡、我、不、著、法衣、是、為、不、同、諸方長老貪衣之弊、也」

堂頭、和尚、或時、示、云。

「羅漢、支仏之坐禅、雖、不、著、味、闕、大悲。

故、不、同、仏祖、大悲、為、先、誓度一切衆生之坐禅、也。

西天、外道、亦、坐禅、也。

雖、然、外道坐禅、必、有、三患。

謂、『著、味』。

謂（いわゆる）、『邪見』。
謂（いわゆる）、『憍慢』。
所以（ゆえに）、永（ながく）、異、仏祖坐禅、也。
又（また）、声聞中、亦（また）、有、坐禅。
雖（いえども）、然（しかり）、声聞、慈悲、乃（すなわち）、薄。
於、諸法中、不、以（をもって）、利智、普（あまねく）、通、諸法実相。
独、善、自身、断、諸仏種。
所以（ゆえに）、永（ながく）、異、仏祖坐禅、也。
謂（いう）、『仏祖坐禅』、従（より）、初発心、願、『集、一切諸仏法』。
故（ゆえに）、於、坐禅中、不、忘、衆生、不、捨、衆生、乃至（ないし）、蜫蟲、常（つねに）、給（たまう）、慈念。
誓願、『済度』、所有功徳、回向、一切。
是故（このゆえ）、仏祖、常（つねに）、在、『欲界』、坐禅、弁道。
於、『欲界』中、唯（ただ）、『瞻部洲』、最勝、因縁。
世世、修、諸功徳、得、心柔軟、也」

道元、拝、白（もうす）。
「作麼生、是（これ）、得、『心柔軟』？」

堂頭、和尚、慈、誨、云。
「弁、肯、『仏仏、祖祖、身心、脱落』、乃（すなわち）、柔軟心、也。
喚（よんで）、這箇、作（なす）、『仏祖心印』、也」

道元、礼拝、九拝。

　堂頭、和尚、慈、誨、云。

「法堂、法座、南階、東西、有、獅子形。

各、向、階。

但(ただし)、面、少(すこし)、向、南、也。

其(その)色、白、也。

全体、可、白。

髪、及(および)、身、尾、皆、白、也。

近代、雖(いえども)、作(なす)、白獅子、頭上、有、青髪、其(その)、不、知、獅子之髪。

以下、至、尾、皆、白、也。

如、汝、作(つくる)、法座上蓋、乃(すなわち)、是(これ)、蓮華蓋、也。

如(ように)、蓮華、覆(おおう)、於、地。

乃(すなわち)、八角、也。

中、有、一面鏡、有、八幢幡。

幡端、毎(ごとに)、角、懸(かける)、鈴。

華葉、五重。

毎(ごとに)、葉、懸(かける)、鈴。

一如、当山法座之蓋、也」

道元、咨目、百拝、白（もうす）。
「適（たまたま）、承、和尚風鈴頌、末上句、云。
『渾身、似、口、掛、虚空』。
落句、云。
『一等、与、他、談、般若』。
所謂（いわゆる）、虚空、者（とは）、可、謂（いっている）、虚空色、耶？
痴者、必定、謂（おもう）、虚空色。
近代、学者、未、暁、仏法、認、青天、而、為（なす）、虚空。
真（まことに）、可、憐憫、也」

堂頭、和尚、慈、誨、云。
「謂（いっている）、『虚空』、者（は）、般若、也。
非、虚空色之虚空。
所謂（いわゆる）、虚空、者（とは）、非、有礙、也。非、無礙、也。
所以（ゆえに）、非、単空之空。
非、偏真之真。
諸方長老、色法、尚（なお）、未、明。
況（まして）、能、暁、空、乎？！
我（わが）箇裡大宋仏法、衰微、不可、言、也」

道元、拝、稟。
「和尚風鈴頌、最好中之最上。
諸方長老、縦（たとえ）、経（へても）、三祇劫、亦（また）、不能、及（およぶ）、也。
雲水兄弟、箇箇、頂戴。

道元、出来、於、遠方之辺土、雖（いえども）、寡聞少見、而、今、披、『伝灯』、『広灯』、『続灯』、『普灯』、及（および）、諸師別録、未、曽（かつて）、得、有、似、和尚風鈴頌。

道元、何、幸、今、得、見聞、歓喜、踊躍、感涙、湿、衣。

昼夜、叩頭、而、頂戴、也。

所以（ゆえん）、然（しかる）、者（は）、端、直、而、有、曲調、也」

堂頭、和尚、将（まさに）乗轎之時、含、笑、示、云。

「你（なんじの）道得（いいえた）、深（ふかく）、有、抜群之気宇。

我、在、清涼、做、這箇風鈴頌。

諸方、雖（いえども）、讃歎、而、未、嘗（かつて）、説、来（してきて）、如斯（このよう）、也。

我、天童、老僧、許、『你（なんじ）、有、眼』。

你（なんじ）、要、做、頌、須（すべからく）、恁地、做」

堂頭、和尚、夜間、示、道元、云。

「生死流転之衆生、若（もし）、発心、求、仏、即（すなわち）、是（これ）、仏祖之子、也。

及（および）、余（よ）、一切衆生、亦（また）、乃（すなわち）、仏祖之子、也。

雖（いえども）、然（しかも）、如是（このよう）、莫（なかれ）、尋、父子之最初、也」

堂頭、和尚、示、道元、云。

「坐禅時、舌、拄、上齶。
或(あるいは)、括、当門、板歯、亦、得。
若(もし)、四、五十年来、慣習、坐禅、渾(まったく)、不、曽(かつて)、低頭、瞌睡、者(もの)、閉、眼目、
坐禅、亦(また)、無、妨。
如、初学未慣熟者、常(つねに)、開、眼目、坐、也。
若(もし)、坐、久、疲労、改、右、改、左、亦、無、妨。
此(これ)、乃(すなわち)、従(より)、仏、直下、僅(わずかに)、五十世、正伝、有、証、也」

拝問。

「日本国、并（ならびに）、本朝疑者、云。

『今、禅院禅師之所弘通、坐禅、頗（すこぶる）、小乗声聞之法』

此（この）難、云何、遮。耶？」

堂頭、和尚、慈、誨、云。

「大宋、日本疑者所難、実（じつに）、未、暁了、仏法、也。

元子(＝道元)、須（すべからく）、知。

如来正法、出過、大小両乗之表。

雖（いえども）、然（しかり）、古仏、慈悲、落草、遂（ついに）、施、大乗小乗之授手方便、也。

元子(＝道元)、須、知。

大乗、者（は）、七枚、菜餅、也。

小乗、者（は）、三枚、胡餅、也。

况（まして）、復（また）、仏祖、本（もとより）、無、空拳之誑小児、也。

黄葉、黄金、随（したがって）、宜、授手。

拈（ひねり）、筋、弄（ろうして）、匙、無（ない）、空（むなしく）、度（わたる）、光陰、也」

堂頭、和尚、慈、誨、云。

「吾、見、你、在、僧堂被位、昼夜、不眠、坐禅、得、甚、好。
儞、向後、必、聞、『美妙香気、世間、無比者』、也。
此、乃、吉祥、也。
或、見、当、面前、如、滴油、落、地、者、吉瑞、也。
若、発、種種触、亦、乃、吉瑞、也。
直、須、救、頭燃、坐禅、弁道」

堂頭、和尚、示、云。

「世尊、言。
『聞思、猶、如、処、門外。
坐禅、直、乃、帰、家、穏、坐』
所以、坐禅、乃至、一須臾、一刹那、功徳、無量。
我、三十余年、与、時、功夫、弁道。
未、曽、生、退。
今年、六十五歳、至、老、『弥、堅』。
你、還、如是、弁道、功夫。
宛、是、仏祖金口之記、也」

堂頭、和尚、慈、誨、云。

「坐禅時、莫(なかれ)、倚(よりかかる)、壁、及(および)、屏風、禅椅、等(など)。

若(もし)、倚(よりかかる)、教(させる)、人、生(しょうじる)、病、也。

直(じきに)、須(すべからく)、正身端坐、如(のように)、『坐禅儀』、慎(つつしんで)、莫(なかれ)、違背」

堂頭、和尚、慈、誨、云。

「起、従(より)、坐禅、欲、経行、者(ば)、不、得、遶歩。

直(じきに)、須(すべからく)、直歩。

若(もし)、二、三十許(ばかり)、歩、欲、回、必(かならず)、右、回。

莫(なかれ)、左、回。

欲、移(うつす)、歩(あゆみ)、先(まず)、移(うつす)、右足。

左足、乃(すなわち)、次(つぐ)」

堂頭、和尚、慈、誨、云。

「如来、起、従(より)、坐禅、而、経行之跡、今、現(げんに)、在、于、西天竺、鄔萇那国(ウディヤーナ)。

浄名居士室、猶(なお)、今、現(げんに)、在。

祇園精舎礎石、未、泯(ほろぶ)。

如是(このような)聖跡、若(もし)、人、到、此(ここ)、度量之時、或(あるいは)、脩(ながい)、或(あるいは)、短、或(あるいは)、延、

或(あるいは)、促、未、有、其定(そのさだまり)。

乃(すなわち)、仏法之閙聒聒、也。

須(すべからく)、知。

今日、東漸、鉢盂、袈裟、拳頭、鼻孔、亦(また)、乃(すなわち)、人、之(これ)、不可、測度、之(の)、

者(もの)、也」

道元、起、座、速、礼、叩、頭、於、地、歓喜、落涙。

堂頭、和尚、慈、誨、云。

「大凡(おおよそ)、坐禅時、安、心、諸処、皆、有、定処。

又(また)、坐禅時、安、心、於、左掌上、乃(すなわち)、仏祖正伝之法、也」

堂頭、和尚、慈、誨、云。

「薬山、高沙弥、不、具、比丘具足戒。

也(また)、非、不、受、仏祖正伝之仏戒、也。

然(しかり)、而(しかして)、搭、僧伽梨衣、持、鉢多羅器、是(これ)、菩薩沙弥、也。

排列之時、依(よって)、菩薩戒之臘、不、依(よる)、沙弥戒之臘、也。

此(これ)、乃(すなわち)、正伝之稟受、也。

你(なんじ)、有、求法之志操、吾之所懽(よろこぶ)喜、也。

洞宗之所託者、儞(なんじ)、乃(すなわち)、是(これ)、也」

道元、拝問。

「参学、古今仏祖之勝躅、也。
初心発明之時、雖、似、有、道、集衆開法之時、如、無、仏法。
又、初発心時、雖、似、無、所、悟、開法演道之時、頗、有、超古之志気。
然、則、為、用、初心、『得道』？ 為、用、後心、『得道』、耶？」

堂頭、和尚、慈、誨、云。

「儞之所問、是、世尊在世、菩薩、声聞、問、於、世尊、之、問、也。
所謂、
『若、法、不増不滅、云何、得、菩提？
唯、仏、能、爾。
何、関、菩薩？』
是、疑問、也。
又、西天、東地、古今、正伝之指示、有、之。
仏仏、祖祖、正伝、云。
『不、但、初心。
不、離、初心』
為、甚、恁麼？
若、但、初心、得道、則、菩薩、初発心、便、応、是、仏。
是、不可、也。
若、無、初心、云何、得、有、第二、第三心、第二、第三法？！
然、則、後、以、初、為、本。
初心、後、為、期。

今、以（をもって）、現喩、喩、此（この）初後。
譬（たとえば）、如、灯、焦、炷、非、初。
不、離、初。
非、後。
不、離、後。
不退不転。
非、新。
非、古。
非、自。
非、他、也。
灯、喩、菩薩道。
炷、喩、無明。
焔、恰（あたかも）、如、初心相応智慧。
仏祖、修習、一行三昧相応智慧、焦、無明惑、非、初。
非、後。
不、離、初、後。
乃（すなわち）、仏祖正伝之宗旨、也」